

# A J P S

ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE

日本スポーツプレス協会会報

## NEWS



AJP  
ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE

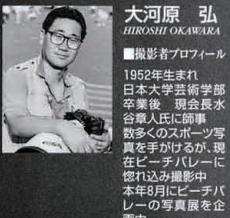
18  
APRIL.30  
2000

SYDNEY OLYMPIC 2000 [インタビュー「日本選手団かく戦う」]  
DIGITAL CAMERA REPORT [アナログからデジタルへの問題点]  
NIKON D1 TEST REPORT [ニコンD1テスト・レポート]  
INFORMATION



表紙  
は語る

佐伯美香に初めて会ったのは、佐伯がアントンタオリオリンピックを終えてビーチバレーに転向を決めてプロとして新スポンサーの記者発表の前のことでした。某広告代理店のお仕事で新たに結成されたビーチバーチームの撮影を都内の小さなスタジオで、スツーツ姿で根っからのインドアスポーツ選手らしく色白な顔をしていながら、「ビーチが出来るのかな」と想つたものです。しかし、その後彼女を3年間追いかけていたうちに彼女が逞しくビーチの女に変身し続けて世界の強敵を相手に大躍進を出来るまでに成長しています。そんな彼女の前に立ちはだかるのが強敵ブラジル選手。シドニーが楽しみになってしまいます。



大河原 弘

HIROSHI OKAWARA

■撮影者プロフィール  
1952年生まれ  
日本大学芸術学部卒業後 現会長水谷章人氏に師事  
多くのスポーツ写真を手がけ、現在ビーチバレーに惚れ込み撮影中  
本年8月にビーチバレーの写真展を開く

## CONTENTS

3 SYDNEY OLYMPIC 2000  
[インタビュー「日本選手団かく戦う」]

8 DIGITAL CAMERA REPORT  
[アナログからデジタルへの問題点]

12 NIKON D1 TEST REPORT  
[ニコンD1テスト・レポート]

13 INFORMATION

# foreword

ビーチバレー、再び!

宮崎 恵里  
Eri Miyazaki

日本でビーチバレーが爆発的にデビューしたのは、パブル全盛の1987年。インドアバレーボールでも圧倒的な人気を博していた川合俊一と熊田康則が優勝した、第1回ビーチバーチャバンからだ。大会会場となった湘南・鵠沼海岸の特設スタジアムには3日間で約2万7000人の観客がつづみかけ、3局のテレビ局が特集番組を組んだ。新スポーツのデビューとして、これほど華々しいスタートを切ったスポーツは他に例がないのではないか。

日本ではバレーボールは、インドアのアマチュアスポーツの人気を独占してきた感がある。特にユンヘン五輪後、日本でのテレビ放映も人気に拍車をかけた。毎年、写真集や選手名鑑が出版され、バレーボール選手は中高生らのアイドルとなつた。第1回ビーチバーチャバンの優勝者、川合、熊田ペアも、まさにそうしたバレーボールの最盛期に活躍したヒーローだったわけで、根底にあったバレーボール人気が、ビーチバレーのデビューを飾つたのである。全国各地にビーチバーチャコートが次々と新設され、「90年に川合俊一がバレーボール界初のプロ選手宣言し、新しいプロフェッショナルスポーツとしても確立したかに見えた」。'96年のアトランタ五輪でビーチバレーは正式種目になり、日本人女子の高橋有紀子、藤田幸子ペアが5位に入賞という快挙を成し遂げた。

にも関わらず、現在、日本のマスコミにおけるコバティションシーンでビーチバレーを見ることはほとんどない。ビーチバレーの魅力は、インドアと違い、いかに自然条件を味方に付けるか、という点にある。太陽の位置や風の向き、強さ、砂のコンディションなどが、選手の技術や試合の流れにダイレクトに影響する。さらに、選手交替も、監督のアドバイスも受けられることがないというルール。テニスの試合と同じような選手だけの技術と精神力による、過酷な時空が、ビーチバレーというスポーツのもう一つの面白さと言えるだろう。

'99年7月、フランスのマルセイユで世界選手権が開催された。インドアバレーボールの選手としてソウル五輪の出場経験があり、アトランタ五輪で5位入賞を果たした高橋が、やはりインドアバレーナショナルチームから転向してきた佐伯美香とともに、この世界選手権で、再び5位という結果を出した。シドニー五輪に照準を合わせてペアを組み、ワールドカップを転戦してきた成果である。圧倒的な強さを誇るブラジルやアメリカ、そして五輪開催地となるオーストラリアがぐんぐん力をつけてきているなかで、5位入賞は、何より世界と互角に渡り合えるという確かな手応えを感じたという二人の言葉通り、意義深いことだと思われる。

さきごろ、日本を縦断して行われたインドアバレーボールのワールドカップでは日本チーム出場のゲームは満員御礼の様相を呈した。ジャニーズの新星「嵐」を起用しての大会そのものをショーアップしたことなどが功を奏した一因と巷ではかまびすしいが、1万円もあるスタンド席から聞こえてくるのは、中学や高校のバレーボール部員が母校を応援するような、バレーボールファンならではのかけ声の大合唱であった。バレーボールのゲームを熟知し愛するサポーターの地盤は、まだまだ健在。ただ、若い世代ですでにマスコミから消え去ったビーチバレーを知るものがいないだけだ。彼らがビーチバレーというスポーツと、佐伯や高橋というヒロインとなるとき、ビーチバレーの人気が復活する、かもしれない。



photo by Shinya Haga

# 日本選手団 かく戦う

シドニー・オリンピック開幕まで半年を切った。こことところの日本選手の競技力は落ちて行く一方。メダルの数だけがオリンピックの意義ではないが、長野オリンピックの例でもわかるように、日本選手の活躍があればこそ、日本国内のオリンピック・ムードメントが盛り上がることも確かなようだ。柔道、水泳など世界選手権、国際大会での日本選手の活躍でシドニーでの好成績もおおいに期待される。そこで日本オリンピック委員会の選手強化の責任者・佐藤宣践氏にシドニーで日本選手はいかに戦うか準備状況を中心に聞いてみた。

[聞き手] 山崎浩子

SYDNEY  
OLYMPIC  
2000  
SPECIAL  
ISSUE

INTERVIEW

# 佐藤 宣践

Nobuyuki  
SATO

1944年1月12日、北海道生まれ。  
1966年と1973年の世界柔道選手権95kg級優勝。  
1974年全日本柔道選手権大会優勝。  
東京教育大学を卒業後、博報堂を経て、現在は東海大学体育学部教授。  
その他、全日本柔道連盟理事・総務委員会委員長、日本オリンピック委員会理事・選手強化本部本部長などを歴任。シドニー・オリンピックの日本選手団強化の最高責任者。

財団法人日本オリンピック委員会  
選手強化本部長

AJPS  
NEWS  
18

3

APRIL  
2000



世界選手権は4連覇している田村亮子。初のオリンピック金メダル獲得は成るか。試合は柔道の初日9月16日だ

photo by Taku Fujita

## 第一の課題は 出場枠確保

山崎 シドニー・オリンピックでは何競技、何種目が実施されるのでしょうか?

佐藤 28競技300種目が行われます。アトランタは26競技でした。あらたにトライアスロンとテコンドーが追加されました。

山崎 日本選手はそのうち何種目にエンtriするのでしょうか?

佐藤 出場枠が取れれば全種目に参加する方針です。現在、各競技が出場枠を重視してやっている最中です。すでに出場枠を取ることが不可能になってしまった競技もあります。たとえばバスケットボールは男女とも参加できません。あと個人では参加できるが団体の出場権を失った女子の体操があります。

山崎 女子のサッカーも出場権を逃していますね。

佐藤 残念ながら失いました。現在集計中ですが、何競技に参加できるか、といふと極めて流動的で、7月の最終エントリーの時期にならないと、はつきりしないでしょう。(インタビュー後、ハンドボールの男女、ホッケーの男女が出場枠を確保できなかった)

山崎 すでに団体競技ではソフトボール

(女子)、野球(男子)、サッカーの男子、体操の男子団体などは出場権を得ています。

佐藤 ご存じのとおりオリンピックがたいへん巨大化してしまって、各競技とも前回のアトランタから厳しい参加制限が設けられるようになりました。個人競技ですと各国際連盟が指定した試合でポイントを争い、その上位選手がオリンピックに出場できるシステムになっています。陸上競技や競泳は標準記録が設定されていて、それを突破しないとオリンピックへの道は開けないシステムになっています。

山崎 佐藤さんとしては、どの競技に出場枠突破を期待されていますか。

佐藤 現時点ではバレーボールですね。特に女子。昨年日本で開催されたワールドカップでは惜しいところで出場枠が確保できなかった。金メダルを取ったごとのある伝統の種目ですから大いに期待しています。男子はアトランタも不出場でしたし厳しいかもしれません。とにかく、かつての金メダル・グループですが、日本のレベルが高くなっています。日本のレベルが下がったというよりもヨーロッパ、パン・アメリカンのレベルがひじょうに上がっています。

山崎 参加枠というものがなかった頃は、出場を希望する選手は誰でも派遣さ

れていたのでしょうか?

佐藤 いちおう日本オリンピック委員会では8位入賞を目指していました。8位入賞ができない種目はご遠慮ください、という基準でした。

山崎 それは各競技団体に通達されたわけですね。

佐藤もちろんそうです。アトランタでは、各競技団体に対して参加しても入賞できるのですか、という個別折衝がありました。今は方針を変えました。というのはオリンピックに出場すること自体が前にも述べたとおりひじょうに厳しい。日本選手がアジア・ブロックで獲得した出場枠をJOCの方針で放棄してしまったら国際連盟での立場もまことにありますから。そうしたこともあるって、出場権を得たならば、自動的にオリンピックには参加できる、というシステムに切り替えました。陸上競技と競泳は標準記録といふものがありまして、A記録を突破した選手は自動的に参加資格を得る。B記録を突破した選手はリーダー要員といふチーム、スポーツへの出場を認めます。それに4年後のアテネ大会のことを考え、B記録でも4年後には活躍するだろう、という選手は特例を認めましょうと陸上競技連盟と水泳連盟には言っています。

山崎 8位以内を目標とする選手選考か

ら出場枠をとれば参加を認めるというシステムに変わったのはいつからですか?

佐藤 今回からです。シドニーに向けて変更しました。アトランタの反省材料の中に出てきて、正式に決まったのは昨年の理事会です。

山崎 選ばれる立場だった選手時代のわたしは8位入賞という参加基準は知りませんでした。

佐藤 山崎さんはロサンゼルス大会のとき新体操に出場されて8位でしたか。いちおうフルマッチですね。

山崎 まあ、なんとか。ところで、シドニーからは出場権を確保すればオリンピックに行ける、ということですが、今までですと8位入賞はとても無理、なんて種目もありましたが、なんとか出させて欲しい、という感じで出場していたわけですか?

佐藤 今まではJOCと各競技団体の話合いだったわけです。個別折衝ということですね。それがとにかく出場権を確保できれば、参加を認めるというシステムになりました。これは良いことだと思いますよ。どの競技も一人でも多くの選手を派遣したいわけですが、自分たちの力で枠を取りさえすればオリンピックに行けるわけです。これはスポーツ本来の姿であると思います。

## 金メダル10個が 当面の目標

山崎 まだ出場枠を取っている段階では難しいと思いますが、日本選手団としての金メダル目標数はどのくらいですか。八木祐四郎JOC会長が、なにかの会合で10個と言われたと聞きました。

佐藤 いやあ、なかなか厳しいですよ。日本選手団としては、八木会長を团长に、笹原正三副会長を副团长に決定しました。残りの本部役員も決定しています。その役員が決めた金メダルの目標数が一応あります。前回のアトランタでは柔道の3個だけでした。シドニーでは柔道プラス複数の競技、たとえば水泳、陸上競技、その他の競技で金メダルを取りたい。そしてアトランタの成績を上回る結果を残したい。アトランタを上回るメダル数を達成したいと考えています。

山崎 複数の競技団体という事ですが、それはある程度読めるものなのですか?

佐藤 厳しいですね。柔道以外は金メダルを取れそうだと思われる種目は厳しいです。厳しい中でわれわれが期待しているのは、陸上競技の長距離陣。男女のマラソン、競泳の女子グループの活躍を期待しています。金メダルが獲得可能な記録を出していますからね。それと体操の塚原直也君、射撃等でうまくいけば金メダルに手が届くのではと期待しています。過去のオリンピック日本が強かった種目です。しかしながら、レスリング、ウェーブリフティングなどはメダルに届きそうもない。金メダルどころかメダルも望み薄ですね。

山崎 競泳も前回のアトランタ直前に好記録を連発して期待されていたのに、オリンピックでは予想外の不振でしたね。

佐藤 原因の第一はプレッシャーですね。マスコミの期待が大きいというか、マスコミだけではなく、マスコミを通して一般国民の方々の期待も大きくなる。選手自身も、ひじょうに強く勝ちたいと思うのではないかですか。世界選手権よりもオリンピックの方がアクションでふえる。優勝候補とさわがれる人ほどオリンピックで失敗する例は多い。これはより大きなプレッシャーがかかるからだと思われます。

山崎 柔道の場合、世界選手権の勢いをシドニーにつなげるため、どのようなプランをお持ちですか?



photo by S. Haga

佐藤 強化スタッフが、いろいろと考えています。まず一つはけがの問題。そして海外のいろいろな有力選手の研究。いわゆるスカウティングというやつですね。それとシドニーでのトレーニング場の確保。自由に好きなときに稽古する場所が意外と海外に行くと少ないです。どこに柔道では骨を用意しなければなりません。各競技団体ともそれぞれに考えているでしょうが、JOCとしては選手が最高のパフォーマンスが發揮できるよう環境を整備することですね。

## 競技力向上への環境整備

山崎 日本オリンピック委員会では具体的に環境整備についてどんなプランをお持ちですか？アトランタまでにはない新しいアイディアも持っていましたがどうですか……。

佐藤 シドニーでは選手の皆さんに力を十分に発揮していただけるよう環境を作るのが我々JOC選手強化本部の役目と考えています。直接の強化はもちろんそれぞれの競技団体で行うものですが、どうしたら選手が力を発揮できるかという間接強化の環境作りをするのが我々の役目です。その一つとして、昨年の11月に競技団体の強化責任者の方々を集め、事前にシドニーの現地視察を行いました。競技団体関係者の視察は、一昨年のアジア大会の前にJOCとして初めて実施しましたが、これが好評で、成果もあったので今回も実施することになりました。競技に精通している強化責任者が実際に現地を視察してもらうことで、本番への準備も十分なものにすることができるはずです。百聞は一見に如かずです。また、選手村への対応の一つとして「日

本食コーナー」を選手村の食堂に作ろうとしています。シドニーの組織委員会の許可もすでに取り付けていますし、梅干し、納豆、しょうゆ、みそなど、日本人の体調に合うものを用意したいと思っています。それが長期滞在での体調維持に役立つと考えています。日本選手のストレス解消に少しでも繋がればいいなあと計画を進めているところです。

山崎 選手村の食堂に日本食を置くというのは、よいアイデアですね。

佐藤 そうですか。日本選手だけではなく、どの国の選手でも食べられるよう「日本食コーナー」を充実させたいと思ってます。それが日本文化の紹介にも繋がっていくのではないかでしょう。なお、この担当は八木会長で「私にまかせなさい」と大いに張り切っておられます。

山崎 長野オリンピックの時に外国チームが作った「ハウス」をJOCがシドニーに作られる計画もあるそうですね。

佐藤 これまでのオリンピックではJOCとしてジャパンハウスを作ったことはありませんでした。日本のスポーツメーカーさんが、サービスステーションを作られて、選手が立ち寄るということはありました。また長野でも地元の方の協力でそれらしきものはありました。

佐藤 ジャパンハウスを作ります。これはJOCとしては初めての試みです。選手村内本部と連絡を取り合って村外本部として活躍する場になります。多くの役員やスポンサー、そして選手、多くの関係者への対応や、各競技団体が小さなパートナーをできるような国際交流の場として、それから多くのマスメディアの方がシドニーに集まるので、その対応に使っていきたいと考えています。

佐藤 そうです。中・長期的な活動としては、今年に完成する予定の国立スポーツ科学センターをナショナル・トレーニングセンターへの懸け橋と位置づけ、積極的に活用していくことがテーマの一つとなります。

佐藤 それはシドニーだけではなく、アテネ、その次ぎのオリンピックへ向けての計画もあるわけですね。

山崎 ジャパンハウスには一般の方も出入りできるわけですね。

佐藤 もちろん。なにか催すものがある時以外は、多くの人たちをシドニー・オリンピックに巻き込んでいかたい。それには、このジャパンハウスの活用が大きくなると言ふのではなく、アテネの理屈に迫っています。

佐藤 JOCのスポーツ奨学金制度、国際スポーツ組織指導者養成制度の推進

はすばらしいですね。わたしの選手時代は、個人で日本食を持っていましたが、それが選手村に入れないで、記者の方にお会いするのも苦労した思い出があります。ジャパンハウスのようなところがあればそんな苦労もなくなりますね。

佐藤 わたしも選手ではなく、指導者としてしかオリンピックに行ったことはありませんが、常々そうしたことを思って、自分たちの経験から今回のアイディアを出したようなわけです。

山崎 環境整備のほか、勝つため、好成績を挙げるためJOCが直接働きかけようとしていることは他にありますか？

佐藤 どの競技団体も、勝つためには、選手、コーチグループの指導陣、スポーツ医科学研究者、そしてもう一つスポーツ行政に携わる指導者、これらのグループが一体となって初めて力を発揮していくと考えています。私はこれを「四輪駆動」という言葉を使っています。特にコーチの方々に期待しているのは、練習の場では、選手に向かってやる気を起こさせ、それをいかに持続させるかということです。これはスポーツに携わるもの永遠のテーマであり、試合においては、いかに力を發揮させるかが永遠のテーマになっていくと思います。JOCとしては四輪駆動がうまく機能するよう、質のよい潤滑油になるよう努力していかなければならないと考えています。

山崎 それはシドニーだけではなく、アテネ、その次ぎのオリンピックへ向けての計画もあるわけですね。

佐藤 そうです。中・長期的な活動としては、今年に完成する予定の国立スポーツ科学センターをナショナル・トレーニングセンターへの懸け橋と位置づけ、積極的に活用していくことがテーマの一つとなります。宿泊施設が少なく、長期的な合宿は難しいなどの面はありますが、ナショナルチームの活動拠点がない競技団体にとっては有効に機能すると思います。JOCとしては積極的に国立スポーツ科学センターに働きかけ競技団体がスムーズに活用できるよう協力したいですね。

山崎 国際交流に関していろいろとプランをお持ちのようですね。

佐藤 JOCがおこなう環境整備として



競泳も日本期待の競技。200m背泳ぎと個人メドレーでメダル獲得も夢ではない萩原智子

photo by T.Fujita



photo by S.Haga

### 山崎 浩子

Hiroko YAMAZAKI  
1960年1月3日、鹿児島県生まれ。  
高校時代に新体操をはじめ1983年世界選手権に参加。1984年のロサンゼルス・オリンピックで位入賞。東京女子体育大学卒。現在スポーツライターとしてさまざまなスポーツをカバーし、雑誌、新聞に連載中。競技者の経験を生かし、選手の心理に迫っています。1985年にAJPSに入会。広報委員会所属。現在AINを主宰している。

も視野に入っています。将来活躍が期待される高校生、大学生が対象となるスポーツ奨学金制度は、有望選手がスポーツに集中できる環境づくりに貢献することが目的です。後者は国際オリンピック委員会や国際競技連盟といった舞台で活躍できる人材を長期的に育成するものです。

山崎 日本人には、どうしても言葉の壁というものがありますが、それを崩そうとするわけですね。

佐藤 そうですね。国際スポーツ政治の場で意見を交わせる人材が不足しています。ルール改正、審判員の選出、用具改正などの諸会議において、そこでの発言力は競技成績にもかかわる重要なものです。こうした問題点を解消していくことが、環境整備に繋がり、競技力の向上にも繋がっていくと信じています。

### Enjoyから Enrich Lifeへ

山崎 さて、話をシドニー・オリンピックに戻しましょう。前回のアトランタ大会である女子選手が「オリンピックをエンジョイしてきます」と発言していました。わたしたちのところは、ずいぶん違うな、と感じましたが、佐藤さんの立場としてはこのエン

ジョイという発言を、どうお考えですか？

佐藤 良い人たちが、我々と違った思いでオリンピックに参加していることは感じています。「エンジョイ」という言葉でマスコミの批判を浴びたこともありました。ただ英語のエンジョイという言葉には単に「楽しむ」という以外に「競技に全力を尽くす」というような意味もあることも確かです。若い人たちが決して単純なエンジョイではなく、少しでも気持ちを和らげる意味で言ったのではないか、と思います。

山崎 日本のために頑張るとか、そのためにはどうぞ、とのような考えは今の若い人にはないでしょうか。

佐藤 中には日本のために頑張る、と思っている選手もいるかもしれません。ただ、オリンピックにはエンジョイという言葉は当てはまらないと思うのです。オリンピックはEnrich Lifeに繋がります。あの素晴らしい体験、そして素晴らしい緊張感が人生を高めていくのに繋がっているのです。我々にとって、オリンピックはEnjoyではなく、Enrich Lifeであると思っています。オリンピックはEnrich Lifeに繋がるということを、ぜひ、選手の皆さんに教えてあげたい、と思っています。

山崎 そうですね。わたしまじめジャーナリストの立場、元オリンピック選手の立場、そして一人の日本人の立場でシドニー・オリンピックを見てみたいと思っています。長時間、どうありがとうございました。

(文責・白鶴隆幸)

# Digital



フィリップ・トルシ  
(Nikon D1で撮影)

# Camera

## アナログからデジタルへの問題点

荒川 雅臣  
Masaomi Arakawa

# Report

コンパクトなデジタル・カメラの普及に続き、キャノン一二コニなどから一眼レフ高級機タイプのデジタル・カメラが続々と発売されている。とくにコニが昨年11月に65万円という一般フォトグラファーにも手の届く価格で一眼レフを発売すると、その速報性、機動性、利便性が高く評価され、果たして現在の技術でデジタルはアナログ銀塩写真を越えたのか。最新機材を使用してその現状を探つてみた。

機器や、一般的に普及している技術(10万円そこそく購入できる画像ソフト)では、まだまだ多くの制約を受けていることを理解するべきでしょう。今回、撮影者側からみたデジタル化、特にデジタルカメラを念頭において話を進めていきたいと思います。

### ■デジタルカメラの生い立ち

デジタルカメラのルーツをたどると、1981年にソニーが発表したフィルムを使用しない電子式カメラ「マビカシステム」にたどります。当時はアナログ信号を記録するシステムでしたが、それを皮切りに「スチルビデオ」と呼ばれた静止画像記録用の電子式カメラが速報性を求める新聞社といくつかのメーカーによって共同開発され、それらはオリンピックを迎えるごとに進歩を遂げていきました。そして、初めてデジタル方式のカメラが発表されたのは88年。もう12年前のことです。その後90年代に入り民生用小型デジタルカメラがパソコンの普及と共に身近なものとなりました。業務用つまり一眼レフタイプのものは、常に報道を目的として開発、使用され、値段も高価なものとして存在していました。

業務用デジタルカメラとはいしばらくの間は、100線(注:スクリーン線数)印刷に用いられる網点の密度で1インチあたりの値)前後のモノクロ印刷が主である新聞には活用できても、グラビア誌など150

199TOYOTA CUP  
(Nikon D1で撮影)



線以上のカラー印刷用としては実用に程遠い画質のものでした。最近になってようやくカラー雑誌での使用にも耐えうる高画質デジタルカメラが発売されるようになりました。現在のハイエンドデジタルカメラの中には、スタジオ撮影を目的として中判カメラのフルムバク部に用いる1600万画素のもの、また高画質の画像を得るために3ショット(注:色分解のためにRGBもしくはCMYのフィルター各色で3回シャッターを切る方式)に対し1回のシャッターで撮影を終えるものがショット)を前提としたものもありますが、スポーツ写真の世界においては大容量ハードディスクを備えたパソコンを常時併用することや、動く被写体を前提に3ショット撮影することなどは不可能に近いので、ここで話題にすることは避けたいと思います。

速報性を最大の目的としたハイエンドデジタルカメラは、新聞社、通信社の利用で大きな成果を上げました。フィルム処理にかかる時間の削減、そして1次元映像信号で記録されたデータは、回線さえ確保できれば世界中のどこからでも即時伝送を可能にし、撮影から印刷まで、時間的にも空間的にも大幅な短縮を可能にしました。そして受け取った側のデータ保管、整理も容易なものとのことです。

### ■銀塩フィルムとデジタルカメラ

では画質という面ではどうでしょう? 最新式のデジタルカメラで記録された画



199TOYOTA CUP  
(Nikon D1で撮影)

クレン線数の倍でよいとされています。通常のカラー印刷では最大175線ですから、350dpiの画像を考えればよいことになります。話を簡単にするため一般的な8bitのRGBの画像で考えてみましょう。

600万画素のデータはTIFFにした場合、単純には18メガバイト弱になります。そのデータを解像度350dpiで展開するとおよそ150mm×220mmにしかなりません。そう、A4サイズ1ページにもならないのです。

600万画素のデジタルカメラを用い、補完等の画像処理を加えるとしても、一定のクオリティを保つためにはA4雑誌で見開き(A3サイズ)までに抑えないとどうがよさそうです。当然この場合はリミングしないことが前提です。加えて電送時にJPEG圧縮した場合、より画質の劣化が生じることも覚悟しなければなりません(注:JPEG圧縮は不可逆圧縮のため、圧縮前の状態へと完全に復元することはできません)。

1ショットデジタルカメラの場合には最大画素数が決まっているので作成できるデータサイズも決まっていますが、フィルムの場合はスキャニングの精度を上げることは容易ですし、トリミングに対してもまだ柔軟性があるといえます。

結局、既存のデジタルカメラの場合、後々生じるであろう他用途への転用は考慮せざる、目的を新聞、雑誌の報道用の撮影に限定したほうがその有効性を見いだしやすいものかもしれません。

また、これより大きいサイズへの印刷やプリント出力をする場合は、フィルムにしてデジタルカメラにしても、後の印刷プロ

セスやラボでの引き伸ばし技術に依存する割合が大きく、一概にカメラやフィルムの性能だけでうんぬん述べることはできないことを付け加えておきます。

## ■デジタルデータの階調

デジタルデータの利点として、データそのものは劣化しない、若干の画質補正が撮影者の意図によって行えるといった点が挙げられます。

劣化に関しては銀塗写真システムが太刀打ちできるものではありません。画質の補正も現像後のフィルムそのものへは難しいと言わざるをえないでしょう。しかし、デジタルデータでも色調、階調が無限に変換できるものなのかというとそうでもないのです。

一般的な8bit画像の場合、表現できる色は理論上1670万色になります。これで十分そうにも思いますが、実は1色につき256段階の階調しか持たわせていません。元画像の階調または色調を変えるといった場合、今あるデータ以上にステップの数を増やすことはできませんから、他を開いてことによって階調、色調を変化させることになります。つまり256ステップのどこかをつぶしていにほかなりません。フォトショップ等の画像ソフトで階調変更を2段階くりかえすと、だんだんとざらざらした画像になることからもおわかりになることでしょう。後から自由に画質は変更できるからあえず撮影だけしておけばよい、という人は誤りです。後処理で画質の劣化を招かないため、また補正を加えるとしても最小限ですませるためにも始めから目的にあった画像を撮影しておくことが大切で、それは銀塗写真における撮影のシビアさとなんら変わりはありません。

さて、最終的に8bit画像にするとしても、元の画像が8bit以上の豊かな階調や色彩を持っていたらば、理想に近いかたちでの階調の圧縮、色彩の選択を経て8bit化することができます。スキャナーもローエンドのものを除き、入力は10bit、12bitといった幅で取り込み、転送時、または最終的に画像を保存する際に8bitにすることが行われています。デジタルカメラも同様で、撮影時に12bitで階調を持ったものは自分の意図する画像への

変更も容易ということで、ハイエンドデジタルカメラでは撮影時12bitというのが一般的なようです。

## ■デジタルカメラの評価

デジタルシステムを評価するにあたっては、入力から出力まで一タールで考えなければなりません。雑誌のデジタルカメラ比較テストの中には、どういう形で出力されたかわからないプリントでカメラのみを評価しているものもありますが、これは全くナンセンスな話です。デジタルシステムでは入力装置、そのドライバーソフト、画像ソフト、出力側のドライバーソフト、そして出力機そのものの性能とそれとの要素によって最終的な画像は意図せぬ変化をします。したがってそれらの組み合わせはとても大切で、出力装置に特性を合わせたデジタルカメラは何の問題もなく高い評価を得ますが、出力装置を変えればその評価が覆る可能性もあります。

市販の民生用デジタルカメラは一般ユーザーがなんら手を加えずに満足感が得られるよう、市場で販売台数の多いインクジェットプリンターに色調を合わせたり、コントラストを高めに設定することで画像にメリハリをつけていることが多いようです。

それに対し、ハイエンドデジタルカメラは先にも上げたように、撮影者の意図を尊重するため、12bitでの撮影、しかもできるだけ緩やかな階調を持たせ、ある程度の画像補正を前提とした設定をとっている所です。

確かにスポーツでは決定的瞬間と速報性が優先される事は多くあります。2002年W杯ではフリーの方もデジタルカメラではなくては仕事にならないかもしれません。しかし、決定的瞬間をとらえて感動を与えたロバート・キャバの写真の在り方がある一方で、何気ない自然の風景ながら、オリジナルプリントの存在そのものが言葉にならないほど深い感銘を呼び起すアンセル・アダムスの写真もあるのです(注:ここで、キャバとアンセル・アダムスを引きついで出すことが正しいかどうかは自信がありませんが……)。

所詮、カメラもフィルムも撮影者が表現すべき画像を記録、再生する道具にすぎません。今後デジタルカメラやプリント

者と全てのプロセスにおけるカラーマッチングが重要になると共に、誰が最終的な判断を下すのか、責任の所在をはっきりさせておく必要があります。また、いったん手元を離れてしまった画像データに関して、無断二次使用、データの流出といった予期せぬ独り歩きを完全に防ぐことは、今現在難いと考えておいた方がいいかもしれません。

## ■銀塗写真の将来

先日従来方法でモノクロ写真をプリントしながらふと考えたことがあります。はたしていつまでこの階調にこだわる事が許されるのだろうか? 実は最近耳にする言葉に「インクジェットプリンタも画質が良くなったり、仕事もこれで十分」というものがあります。本当にインクジェットプリンタの画像が銀塗プリントに置き換えられるものになるのでしょうか? そして、適正な画像を評価できる目を持った編集者やディレクターはいつまでいてくれるのでしょうか?

我が家にも、いつの間にかコンピューターとその周辺機器が入り込み、それらは急速に増殖し今や居住スペースさえ脅かされつつあります。しかしこれまでの写真システムが必要ないと感じたことはありません。

被写体の形だけで写真が成り立つならば、先達の写真家たちが被写体のディテールにとことんこだわり、現像液の調合や現像方法にまで工夫を凝らしてきた努力は何だったのでしょうか。

確かにスポーツでは決定的瞬間と速報性が優先される事は多くあります。2002年W杯ではフリーの方もデジタルカメラではなくては仕事にならないかもしれません。しかし、決定的瞬間をとらえて感動を与えたロバート・キャバの写真の在り方がある一方で、何気ない自然の風景ながら、オリジナルプリントの存在そのものが言葉にならないほど深い感銘を呼び起すアンセル・アダムスの写真もあるのです(注:ここで、キャバとアンセル・アダムスを引きついで出すことが正しいかどうかは自信がありませんが……)。

所詮、カメラもフィルムも撮影者が表現すべき画像を記録、再生する道具にすぎません。今後デジタルカメラやプリント

タもますます発展し新たな表現方法を作り出していくでしょう。撮影者はその時々自分の要求に応じた手法を選択すれば良いものだと思います。ですが写真家として本当の画質を見極める目は失いたくないもの。そして銀塗写真特有の情報の深さ、豊かな階調表現というのも今まで認識しておくべきだと私は考えます。

## ■ニコンD1

さて、このように偏った考えを持った私ですが、今回D1をテストさせていただく機会がありました。

これまでサイズを大きくすると極端に歩留まりが悪くなり、コストも激しく上がるとされた大型のCCDイメージセンサーを用いているにもかかわらず、65万円という価格に抑えたというのがD1の特筆すべき点でしょう。

操作感はF5、F100に通じるもので、F5を使用している私は説明書に1度目を通していただけでは戸惑うことなく使用できました。

掲載が決まっていた雑誌はA4サイズ5段組、使用スペースは1~2段分でしたから理論上からも実際においても速報写真という意味ではなんら問題はありませんでした。

しかし、海外のフォトエージェントからはすぐに画像サイズの大きさについてクレームがつきました。そう、エージェントにストックする段階では写真の使用目的は決

まっていません。したがってどのようなクライアントからの要求にも応えられるよう、もっと大きなサイズの画像データが欲しかったようです。しかしこちらから送ったデータはフルサイズ。画素数による限界を感じた瞬間です。

プリビックログラフー3000にて出力も行いましたが、これらも結局は画像サイズが小さいため、画質優先の400dpi(注:ビットログラフーの最大解像度)で出力するとA6にも満たない大きさになってしましました。家庭内の記念写真程度の目的ならば、補完が入ることが前提のため絶対的なデータサイズは小さくてすむインクジェット方式のプリンターで出力すれば、A4サイズ位には伸ばすことも可能でしょう。

D1を使用して、報道用カメラがデジタルカメラにならざるを得ないということは実感しました。技術の進歩とともに画素数も上がり、クオリティの高い画も作れるようになることは確かで、その先鞭をつけたカメラとしての意義は大きいと思います。しかしこの手のカメラのユーザーは新聞社、通信社が大半を占めています。

D1においてもその意向が強く感じられました。新聞社としての要求はこれ以上の画素数や画質よりも操作性、機動性の向上を望むとも聞きます。デジタルカメラの明るい未来のためにもっと広い範囲からの声を聞き、反映していただきたいところです。

## キヤノンEOS-1V発売

キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社が新しい一眼レフカメラを新発売した。2月11日に東京のホテル・ニューオータニで発表されたキヤノンEOS-1Vは、EOSのコンセプトを守りながら将来のデジタル化を脱んだカメラだ。銀塗フィルムを撮影しながら36枚どりフィルム100本分のデータを記憶する(データの取り出しにはパソコンと別売りCD-Rが必要)新機構が目を引く。EOS-1Vの詳しい使用報告は次号に掲載を予定している。なお、すでにEOS-1Vは3月に全国一斉販売されている。



# デジタル写真考

## Nikon D1 test report

小林 洋  
Yut Kobayashi



### ニコンD1への興味

ニコンD1は1999年秋に登場し、同種のプロ用機材としては破格の値段設定でデジタル方式のプロ用カメラを数歩身近なものにしたように思います。以来1年半、専門誌を始めさまざまな雑誌でレポートされており、その性能やスペック等については十分周知のことであろうと思われる所以ここでは省略させていただきます。

私がニコンD1に興味を引かれたところは、長年のニコユーザーとしての立場もさることながら、勿論デジタル映像に興味があったことと、デジタル写真の環境を総合的に構築しそのシステムの中の最前線にニコンD1をおき開発されている点でした。デジタル写真環境についてうんちくをお話する程知識も無く研究もしていない私が述べても説得力に欠けるとは思うのですが、何とも実感のものでなかったデジタルという分野においては、撮影から現像(コンピュータ処理)、伝送、分類管理、保管そして活用/送信まで総合的なデジタル映像システムを開発し商品化するまでD1は完成されないと考える方に大きな意味と意義を感じたからです。これは私見ですが、光学機器メーカーがデジタル機材を商品化する上の責任は、単に映像を結び記録するメカニズムの追及という従来の考え方では足りないので、私は感じていました。フィルムに代わるメディアに記録する方式まで機材メーカーの選択に任されている以上、記録方式がその後の全てに多大な影響を与えていましたからです。カメラは光学機器メーカー、フィルムは感材メーカー、現像はラボと一枚の写真原稿を作成するために分かれている分野の大半の条件を、カメラという光学機器が持ってしまう現実が生まれましたからです。言うまでもなく、デジタル処理や管理にはコンピューターが大きくかかっていることも事実で、カメラだけに過大な重荷を背負わせるのは酷と言えるかもしれません。撮影という最前

### 膨大な時間という代償

余談ながら、私は我が頃間で物わかりの良いほうではありません。おまけに負けず嫌いで一聞いて手を知ったつもりがどんなに良い思い違いをするタイプです。こういうタイプの人間は、コンピューターにとって余り良い相手であるとはいえない事を最近認識しました。思うように出来ない苛立ちはコンフリクトを招き、戸惑いは無知からくる恐怖を増幅し度読んでも専門用語につまずき時間がばかりが過ぎ寝不足の毎日。しかし、何日も日々巡りがたいた数十分の電話(カスタマーサービス)で全てを解決したりとする1歩進んで2歩下がる。ツールとしてのコンピューターに振り回される感じに半ば自閉症気味の毎日。それでも諦めきれないのがデジタルなのではあります。デジタルカメラへの投資は、フィルム代と現像代を考えれば1年で元が取れると聞かれています。未熟ながら経験から言わせていただければ、計算上は確かにそうである場合もありますが、それは相当分を自分で処理するからであり、そこまでにかかる膨大な時間とリスクを代償にしなければなりません。それにコンピューターを含む日新月

歩の機材を加味すると単純比較では計れないというのが私の結論です。デジタルを前に寧ろ今我々が再認識すべきは、本来あるべきフォトグラファーとしての使命、そして自身の目的ではないでしょうか。今のところ、デジタルとアナログとはその表現方法においてまた考え方において、全く別の方法論であると思います。どちらにするかは、自身の目的に照らし選択する以外にありません。便宜性のみでデジタルを語れば別れはありません。しかし、デジタルは現在のところ便宜性とは背中合わせに危険性や本来の目的を損なう可能性が潜んでいると思うのは考え過ぎでしょうか。これも私の無知からくる困惑なら良いのですが、少なくとも、デスクトップ上で繰り返される作業の中で、今まででは無意識だった多くの条件や情報を判断し決定しなければ先へ進めないことを知りました。興味本位で始めたデジタルでしたが、こんなところで今までの自分の曖昧さを知らされるのはめになろうとは思いました。所詮全ては経験と慣れではあります。まずは一步踏み出さなければ何も始まりません。ただデジタル映像について一つ言えることは、今最前線に位置する我々が後込みすることなくデジタルに触れ、試行錯誤を重ね多くの討論を繰り返し映像を扱う世界レベルのモードを再構築しなければならないということです。さもなくとも、日毎に肥大化し独り歩き始めたデジタルといふシステムの大波にただ呑み込まれてしまうかもしれないからです。これもデスクトップと睨らめっこし過ぎた私の妄想なのかもしれません。

今回のレポートは、ニコンD1システムの全てを体験したわけではありませんが、未熟ながら経験から言わせていただければ、計算上は確かにそうである場合もありますが、それは相当分を自分で処理するからであり、そこまでにかかる膨大な時間とリスクを代償にしなければなりません。それにコンピューターを含む日新月

# INFORMATION

## PENTAX

### 67判用高性能中望遠レンズ

「SMCペンタックス M\*67  
300mmF4ED [IF]」

#### 新発売

希望小売価格¥300,000(税別)

レンズ構成／9群9枚 画角／17° 紋り方式／完全自動紋り 最小紋り/F32 測光方式／TTL開放測光 最短撮影距離／2m フィルター径／82mm 最大撮影倍率／0.18倍 寸法／92.5mm(最大径)×209.5mm(長さ) 質量(重さ)／1,650g

### 35mmAF一眼レフカメラ用中望遠レンズ

「SMCペンタックス  
FA77mmF1.8Limited」

#### 新発売

希望小売価格¥97,000(税別)



### 【特長】

- ① 特殊低分散ガラス(EDガラス)の採用と、新たな光学設計で諸収差を極限まで低減し、クリアでシャープな描写性能を実現。
- ② 内部レンズの移動でピントを合わせるインナーフォーカス方式を採用することで、最短撮影距離を従来製品に比べ半分以下の2mに大幅縮短。しかも、レンズの全長が変化しないのでバランス良く撮影可能。
- ③ プレを防ぐとともに手持ち撮影時にフォーカスリングがスムーズに操作できるようデザインされた鏡筒一体型の三脚座を装備。
- ④ FREEシステムによるフォーカシングピント合わせには、レンズ系の後群を固定したまま前群だけを移動させるFREEシステムを採用。近距離から遠距離まで安定した像性能が得られる。
- ⑤ 高級感・精密感のあるデザイン。レンズ本体にはアルミ素材を使用し、高級感・精密感のある仕上げになっている。また、カマラボディへの装着性を高める"フィンガーポイント"を採用、その素材は深緑色の七宝焼きだ。

### 【仕様】

マウント／ペンタックスKAFマウント レンズ構成／6群7枚 画角／31.5° 紋り方式／完全自動紋り 最小紋り/F22 測光方式／TTL開放測光 最短撮影距離／0.7m フィルター径／49mm 最大撮影倍率／0.14倍 寸法／64mm(最大径)×48mm(長さ) 質量(重さ)／270g

### 【仕様】

マウント／ペンタックスKAFマウント レンズ構成／6群7枚 画角／31.5° 紋り方式／完全自動紋り 最小紋り/F22 測光方式／TTL開放測光 最短撮影距離／0.7m フィルター径／49mm 最大撮影倍率／0.14倍 寸法／64mm(最大径)×48mm(長さ) 質量(重さ)／270g

「PENTAX Service Professional VISAカード」  
発行開始

### 【概要】

名称／「PENTAX Service Professional VISAカード」(略称PSPカード)  
対象／プロカメラマン 会費＝入会金¥2,000、年会費¥3,000(内、住友VISAカード年会費¥1,250 \*初年度無料)

### 【特典】

- 国内でのプロサービス
- ① 機材修理の特別割引(会員限定の特別割引価格による機材修理が受けられる)
- ② 修理代替の機材無料貸出し(修理中に限り、代替機材の無料貸出しサービスが受けられる。但し、事前の申し込みが必要)
- ③ 機材の試用貸出し(試用を目的とした



SMCペンタックス M\*67 300mmF4ED [IF]

機材の貸出しサービスが受けられる。  
但し、事前の申し込みが必要)  
①プロフェッショナルサービス(国内サービスセンターにPSPカードを提示するだけで、各種のプロフェッショナルサービスが受けられる)



PENTAX Service Professional VISAカード

#### ● 海外でのプロサービス

- ① 機材修理の特別割引(会員限定の特別割引による機材修理が受けられる。但し、各国のサービス窓口によって割引内容が異なる)
- ② プロフェッショナルサービス(各国で実施しているプロフェッショナルサービスが受けられる。但し、各國でサービス内容が異なったり、一部でプロサービスを実施していない窓口もある)
- 住友VISAカードならではの特典
  - ① 世界各国・地域の加盟店で利用できる(世界250ヵ国・地域、1,600万店の加盟店)
  - ② ブライムクラブ(レストラン、ホテル、ブティック、美容院など、国内50,000店、海外34都市1,500店のブライムクラブ加盟店で、5~20%の特別割引サービスが受けられる)
  - ③ VISAジャパンデスク(世界主要都市44カ所で、現地スタッフが日本語でバックアップサービスする。緊急時の対応はもちろん、ゴルフ場やレストラン、イベントの予約などが気軽に利用できる)

**MINOLTA**

### 「Dimâge (ディマージュ) RD3000」 新発売

#### 希望小売価格

Dimâge RD3000  
(本体+アクセサリーキット) ¥360,000  
Dimâge RD3000 システムパッケージ  
(500セット限界発売) ¥495,000  
レンズ 17mm F3.5 RD ¥100,000

#### 【特長】

##### ① 270万画素をフルに活かす高品位画像

・高精細画像 世界で初めて導入された「画面分割4板撮像システム」により、業務用途に充分応える270万画素の高精細画像を実現。

・高画質レンズ 撮影レンズは同社のAPS一眼レフ用交換レンズ、「Vレンズ」を採用。35mm用交換レンズに比べて体積・重量を約4割削減しながら、レンズ性能を維持・向上させて、収差の少ない、良好な描写を実現している。また、全レンズに独自の「円形絞り」を採用しており、ボケ像を美しく再現する。

・多分割測光およびホワイトバランス  
ミノルタの一眼レフカメラαシリーズで定評のある、「14分割ハニカムパターン測光」で、的確に被写体の光線状況を読み取る。また、ホワイトバランスに関しては、外光式オートとマニュアル設定、カス

タム設定の3種類の方から自由に選択でき、ユーザーの色調整の意図を忠実に再現する。

・ローパスフィルター リレー光学系内にローパスフィルターを配置することで、CD上で発生してしまう、モアレ状の色にじみ(擬色)を最小限に抑え、クリアな画像を提供する。

##### ② レンズを始めとする充実したシステムアクセサリー

35mmシステム換算で焦点距離26~616mm相当の撮影画角をカバーする、コンパクトな「Vレンズ」が交換レンズとして使用でき、様々な用途に対応できる。外部フラッシュとして、VECTIS S-1用フラッシュを始め、リング照明方式の「マクロフラッシュ1200AF」を含む豊富なシステム用フラッシュも使用でき、多彩な照明効果を与えられる。

##### ③ 携帯性に優れたボディ

ボディ本体は、レンズ交換式デジタルカメラの中でも最も小さく、かつ軽いクラスとなっており、さらにレンズを装着した形では、従来の業務用に比べて大幅に携帯性が向上。結果として35mm高級一眼レフカメラと同じレベルの機動性をもち、従来の業務用デジタルカメラでは困難だった手持ち撮影を自在に行える。

##### ④ 高いPC親和性

・コンパクトフラッシュ(以下、CF)カードの採用 画像記録媒体としてCFカードを採用しており、PCカードアダプターを利用して、パソコンへのスムーズな画像転送が可能。

・マルチOSに対応 Windows98、Windows95、WindowsNT4.0、MacOSの四つのOSに対応。



界最小・最軽量のハードディスク・ドライブ(マイクロドライブ)も使用可能で、この場合にはより多くの画像を記録できる。

・汎用性の高い、Exif2を採用 画像ファイル形式として「Exif2」(JPEG, TIFF)を採用しているため、「Photoshop」などの汎用の画像処理ソフトで直接、画像を開ける。

・SCSIインターフェイスを採用 業務分野で普及しているSCSIインターフェイスを採用し、これを用いてパソコンへの高速画像転送が可能。

・マルチOSに対応 Windows98、Windows95、WindowsNT4.0、MacOSの四つのOSに対応。

##### ⑤ 高信頼性

外装にはマグネシウム合金を採用し、耐衝撃性と軽量化を両立。また、ボディと交換レンズとの接合部であるレンズマウントには金属マウントを採用し、強度アップされている。

##### ⑥ 業務用途に対応する基本機能の向上

・5.1cm低温ポリシリコンTFT液晶モニターの搭載 ボディ背面の大型液晶モニターで、撮影画像をその場で再生可能。

・長秒時モード 露出モードをマニュアルに設定すると、最長30秒までの長秒時露出ができる。

・ニッケル水素電池対応 汎用規格の充電電池を採用しており、入手が容易。



Dimâge RD3000



白鶴隆幸

まず最初にAJPS NEWS 第18号の発行が大幅に遅れてしまったことをお詫び申し上げます。いろいろな事情が重なり、こうした事態になってしまったのですが、すべてわたしの不徳のいたすところです。原稿執筆をお願いした方、インビューニーに協力いただいたJOCの皆様、Informationに玉稿をいただきました賛助会員の皆様には特にお詫びいたします。

オリビック・イヤーに入り、スポーツ・ジャーナリズムの世界も活況を呈してきたようです。この会報を作つていてお忙しい方は「そんな金にこならんの協力できるか」とまでいわないにしても、かねご無理を申し上げました。この会報の仕事もボランティアである以上、忙しい会員の方はどうしてもご自分の仕事が優先されてしまうようです。

一方、構造不況どっぷけつかった私は、ひたすら待ちの姿勢でした。初めての経験で待ちに待った結果が発行遅延の原因だと自己分析しております。厳しいワーランスの世界を改めて知ったような気がします。今後ともよろしくご協力のほどを。



日本スポーツ  
プレス協会会報 18  
APRIL  
30  
2000

編集・発行人 水谷 章人  
編集スタッフ 白鶴 隆幸 山崎 浩子 田尻 格  
竹内 里摩子 荒川雅臣 芳賀 伸哉  
編集協力 光本 淳(色えんぴつ)  
編集・発行所 日本スポーツプレス協会(AJPS)

〒112-0013  
東京都文京区音羽1-21-10 関根ビル602  
TEL. 03-3946-9033  
FAX. 03-3946-9036  
E-mail:ajpsjim@ibm.net

本誌掲載記事、写真を無断で転載することはできません。

**Canon**

**CREATE**

PRO LAB FOR CREATIVE PROFESSIONALS

**DESCENTE**

**FUJIFILM**

**HORIUCHI COLOR**

**Kodak**

**Konica**

**SHASHIN  
kosha**

**MINOLTA**

**Nikon**

**PENTAX**



日本スポーツプレス協会